

# 「ライフワークは在宅医療、認知症ケア、地域活動」 — ゆう薬局・船戸一晴さん

こんにちは。Pharmatching チームです。

薬剤師をもっと知ってもらいたい。

そんな思いから、京都府で働く薬剤師を紹介していく「#Pharmatching 薬剤師名鑑」シリーズ、第一弾！

今回は、丹後・舞鶴・福知山地域で働く 船戸一晴 さん。

薬局薬剤師を目指した経緯や現在のお仕事について、薬局の環境作りの工夫なども語ってもらいました。

船戸さんへのインタビュー第一回として、「薬剤師と患者さんの関わり方」についてお伺いしていきます。

## - PROFILE -



### 船戸一晴 ふなとかずはる

京都・京丹後生まれ。41歳。

保険薬局の薬剤師一筋19年。

認知症キャラバンメイト。

老人会、子育てサロン等での出前講座の講師実績多数。

コミュニティ FM(FM たんご、FM まいづる)パーソナリティ。

「ライフワークは在宅医療、認知症ケア、地域活動」だと、笑顔でおっしゃる船戸さん。

— 薬局薬剤師を志したきっかけを教えてください。

船戸さん 小児喘息で入退院を繰り返していた時、病院スタッフさんがかっこよく見えたので薬剤師になりたいと思いました。人体の図鑑や本にも興味がありました。

薬局薬剤師を選んだのは、実習に行った薬局が良かったからです。これからは、病院よりも薬局の方が、患者さんの近くで働けると思いました。

— 「患者さんの近く」とは、例えば在宅医療のことでしょうか。

船戸さん そうですね。入職 2 年目から在宅医療に関わっていました。在宅の経験をしたからこそ、いろいろなことが見えるようになったと感じます。

患者さんのお家に行くと、患者さんの生活状況や、患者さんを誰が支えているのか(ご家族、訪問看護師さん、ケアマネさん、配食の方、ご近所さん等)がよく分かります。

でも、「在宅が一番で、外来ではできないことが多い」とは今は思っていないんです。薬局に来たときはもちろん、電話で相談してくれる患者さんもいらっしゃいます。

— 患者さんから受けた相談の中で、特に思い出深いエピソードはありますか？

船戸さん 免疫抑制剤を使っている患者さんが病院を受診されるときに、一緒について行ったことがありましたね。私が介入したことで結果的に投与量を減らすことが出来ました。

主治医の先生には、「まさにこういう介入をして欲しかったんだよ」といたく褒めていただいたし、患者さんは「あの怖い先生がこんなに話してくれるんだ！」と感動されていました(笑)。

— ちなみに、そういう業務って、患者さんのためにはなっても、直接的に点数(=お金)にはなりませんよね。

船戸さん そうですね、「患者さんの安心に繋がるなら！」という思いでやっていますね。自分が動くことで患者さんのプラスになるのが見えることが、何よりのモチベーションです。

点数と評価は後から付いてくるものですから、今は点数が付かない業務でも、いつか点数が付くくらいに価値が認められるまで頑張らないとな、と思っています。

— 患者さんと接するときに大切にしていることはありますか？

船戸さん 踏み込むべきタイミングを見極めつつ、患者さんと接することです。質問する時は、最初はクローズドクエスチョン(答えやすい質問)から始め、オープンクエスチョンへと移ります。

また、患者さんの会話のみから情報を得ようとせず、処方箋や他の医療従事者との会話からも情報を得るようにしています。



「患者さんの安心に繋がるなら！」と積極的に患者さんに関わっていらっしゃる船戸さん。

患者さんとの関わりを大事にしていることがとても伝わってくる船戸さんのインタビュー vol.1、いかがでしたでしょうか？

病院受診について行ったエピソードなど、「ここまでの薬剤師もいるんだ！」と驚くようなお話もありましたね。皆様の参考になれば幸いです。

次回vol.2は、船戸さん流『相談しやすい薬局作りの工夫』に迫ります。乞うご期待！

### 取材した薬学生の感想

終始にこやかに取材を受けて下さり、とても和やかな時間となりました。船戸先生は地域の方のことを思って、薬剤師にできることを精一杯取り組んでいらっしゃる事が伝わってきました。船戸先生と一緒に診療についていくことで、おばあちゃんが医師に相談しにくいことを代わりに伝え、薬を変更することができたという話が印象に残っています。薬剤師が診療についていくケースはまれではありますが、薬剤師はこんなこともできてしまいます。これからは、地域全体で市民の健康をサポートする世の中になっていきます。気軽に、身の回りの保険薬局、ドラッグストアを覗いてみてください。健康に関するちょっとしたことや薬剤師さんと話してみたいなどふらっと立ち寄ってほしいなと思います。身の回りには、健康をサポートしてくれる方が沢山います。一人で悩まずに是非薬剤師に相談してほしいなと思います。



インタビュー：船戸一晴 先生（河辺ゆう薬局）

熊本大学薬学部卒業後、ゆう薬局グループ入社。

全国薬剤師・在宅療養支援連絡会所属。

丹後薬剤師会 会長。

認知症キャラバンメイト。

老人会、子育てサロン等での出前講座の講師実績多数。

コミュニティFM(FM たんご、FM まいづる)パーソナリティ。

※それぞれ週1更新の番組を1コマ担当

ゆう薬局カフェ(舞鶴・福知山)運営。

学校薬剤師。

### 船戸先生 ご相談窓口

基本は河辺ゆう薬局(京丹後市大宮町河辺)勤務。

丹後・舞鶴・福知山13店舗のゆう薬局をフォローしているので固定店舗は決まっています。